

笑い種の花は多分黄色い

赤松

青海

人  
物

大西（27）漫才師

前野（27）漫才師

勝俣（24）お笑い芸人

野間（23）お笑い芸人

権田（71）漫才師

○軽井沢フローズホテル・入口（タ）

万平通りに面しているホテル。

「軽井沢フローズホテル四〇周年記念  
パーティー」の看板。

○同・レストラン・舞台

ビュッフェ形式のレストラン。

大西（２７）と前野（２７）が漫才。

プロジェクターに「蓬萊坊」のコンビ  
ほうらいぼう  
名と宣材写真が投映される。

大西「いやー四〇周年！こないな機会に漫才  
させて頂けるなんてホンマ光栄ですわ！」

前野「僕もね。大阪の小さい劇場の前説から  
やっと軽井沢に足を踏み入れられたと思う  
とね、なんというか、感無量ですよ」

大西「アホ！田舎もんがバレル！」

席に着いて観覧する客はまばら。

前野「……えー、僕ら蓬萊坊って言うんで、  
名前だけでも覚えていって下さいねー。あ  
の豚まんでは有名なところです」

大西「いや551蓬萊とちゃうわ！名義の侵害で訴えられたら完敗やで！」

客、雑談して漫才を聞いていない。

大西、マイクが拾わない小さな舌打ち。

前野、呆然とした目でネタを続ける。

舞台袖の野間（23）、嘆息して移動。

権田（71）、後方の席でビールを飲みながら、退屈そうに漫才を見つめる。

#### ○同・同・楽屋

金髪のかつらがラックにかけてある。

卓上にはサングラスとY S Lの鞆。  
イフ・サン・ローラン

勝俣（24）、際どい衣装で踊る女性のショート動画を見てニヤつく。

野間、楽屋に入室。

勝俣「野間ー、どう？あったまってた？」

野間「学級崩壊した教室」

勝俣「あらーダメだったかー」

野間「大阪の漫才は変なところで古いからな」

勝俣、スマホから野間に視線を移す。

勝俣「んー、俺は最近の頭良いお笑いより好きだけどな。あーゆう喋しゃべくり」

野間「そら勝俣、お前がバカだからだろ。でもあれは純粹に面白くな……あやべ」

ノックなしに大西・前野が入室。

野間、笑顔を作って元気よく挨拶。

野間「先輩お疲れ様っす！面白かったっす！二〇辛いくヤツ大体見栄張ってる、とか！」

大西、野間を睨み、無視して素通り。

前野「アホか大西。後輩がボケとんのやからツツコめ。それコイチや、俺ら551や、って……いや551でもないけど」

大西「何で舞台袖まで漫才せなアカンねん。

勘弁してくれや……」

大西、座席に腰掛けぐったりする。

前野「ゴメンな。大西陰キヤやから人とロクに会話できへんねん」

野間「……いえ、僕もボケすぎて芸人以外と話せません！収録でやったボケも9割は――」

勝俣「野間、もういい。早くに挨拶させろよ」

勝俣、立ち上がり、前野に一礼する。

勝俣「ども！アールグレーの勝俣です！僕、蓬萊坊さんのネタ結構好きで！」

野間「あ、挨拶まだか。野間っす！」

前野「どうもおーきに。前野です。売れっ子芸人に名前を覚えてもらって光栄やわ」

大西「……大西です」

勝俣、笑ってかつらをかぶり、サングラスをつけ、鞆から生卵を取り出し、割って飲み込む。

勝俣「先輩、卵います？気合い入りますよ」

大西、言われるがまま卵を受け取る。

勝俣「じゃ。僕らのネタ、見て下さい！」

野間・勝俣、一礼して楽屋を出る。

大西、卵を見つめ、苦笑。

大西「……今更何の気合い出せ言うねん」

前野「……お前の顔、今めっちゃきしよいで。

鏡見てこい」

大西「うっせ生まれつきや」

大西、卵を胸ポケットにしまい退出。

○同・同・舞台

プロジェクターに「アールグレー」、「ニ  
ューウェーブコント 準優勝」の文字と  
二人の宣材写真。

舞台の前に思い思いに雑談する観客。

机と教卓が一つ、机に野間が座る。

野間 「経営学が学べるって聞いたけど、ど  
んなことが学べるんだろー」

急にクラブミュージックが流れ出す。

急な大音声に観客が舞台を注目し出す。

× × ×

金髪のかつらとサングラスをかけた

勝俣がY S Lの鞆を片手に登場。

勝俣 「どーも、本指名来たんで来ました」

野間 「え、誰だあの人」

勝俣 「誰って？世の中には、二種類の男しか  
いない。俺か、俺以外か。ども、俺です」

野間 「だから誰？！というかそれローランド  
さんの名言！」

勝俣 「やればできるじゃない」

野間「いやあんた偽物！本物ヅラしちやダメだから！」

勝俣「本物とか偽物とか、どうでも良いじゃん？俺は、オレ」

野間「……何かぼいこと言ってる！」

観客の潜み笑い。

勝俣「授業すればいいんだっけ？簡単だよ。まずオーラを着ます」

野間「まず無理！オーラ着るって何？！」

勝俣「次に鏡を見て、身だしなみを整えます」

野間「お……？まともなこと言ってる？」

勝俣、親指と人差し指をこする仕草。

勝俣「俺のオーラくせつ毛だから、セットに時間かかんの。特に梅雨の時期は蒸れる」

野間「結局オーラ！今の情報全部いらんし！」

勝俣「最後に本指名来るまで三分待ちます」

野間「ずっと経営じゃなくてホストの話してる！しかも参考にならないヤツ！」

観客の方からさつきより大きな笑い。

勝俣「じゃ質問ある姫、いる？」



野間、手を上げる。

野間「はい！ホストの仕方じゃなくてちゃんと経営を教えて下さい！」

勝俣「あー、そうね……」

勝俣、鞆からお絵かき帳を取り出す。

「ローランドさん名言集<sup>秘</sup>」の記載。

野間「コイツ堂々とカンニングしてる！」

勝俣「これどう？お金を追い求めて働いているうちはまだまだ」

野間「もう帰れ！」

野間、出口の方を勢いよく指さす。

× × ×

観客、爆笑。

会場後方で腕を組んで笑う大西、急に隣の人に足下を殴られる。

大西「え、何すか急に……って、え！」

権田、杖について隣にたっている。

権田「お前何しとんねん」

大西「ごんだ&もちたの権田師匠？！何でこんな所に？！」

権田「ここ軽井沢や。別荘あんねん。そんなことより、何でお前は、観客と同じ目線で、後輩のネタで笑っとんねん」

大西「それは……」

権田、溜息をつき杖で大西の脛を叩く。

大西「痛っ」

権田「奢ったるから相方と一緒にウチ来い」

○旧軽井沢地区・住宅街（夜）

林道の途中に邸宅が点在する。

無人の道を歩く大西・前野。

前野「……なあ、綺麗やな、ここ。将来売れたら住んでみたいわ」

大西、返事を返さない。

前野「てかホンマに？権田師匠いてはんの？」

大西、答えずアプリの目標地点に到着。

表札には「権田」とある。

前野「ホンマに師匠んちゃん……」

○権田邸・門前（夜）

門前のチャイムを鳴らす大西。

チャイムから権田の声。

権田の声「……どちらさん？」

大西「ひど！呼び出したんそっちですよ！」

前野「蓬菜坊の前野っています！何か奢ってもらえるって聞きました！」

権田の声「お前ら、ここ来るまで何考えてた？」

大西「えっ」

権田の声「何考えてここまで来たか聞いてんねん」

大西・前野、顔を見合わせる。

前野「軽井沢綺麗やな、ここに住めるくらい売りたいな、って」

大西「……漫才師辞めようかな、って」

前野、目を見開き大西を見つめる。

大西「何で俺こないおもんないんやろ、あいつらの言うとおりで、純粹におもんない。漫才好きはずなのに、おもしろいことも何も思いつかん……。何で——」

前野、大西の頬を叩き胸ぐらを掴む。

前野「……お前、アホすぎや！」

前野の涙目に我に返る大西。

権田の声「漫才師は人を笑わすことだけ考え  
なアカン。自分らこのままやと失格やぞ。

今何すんのがおもしろいか、それだけ考えや」

チャイムが切れる。

大西「……結局何も奢らんのか」

前野「……そうやないやろ」

大西、少し考え、胸ポケットの卵を取り出す。

意を決して権田邸に勢いよく投げる。

卵は壁にはじかれて割れずに落ちる。

大西「……つてゆで卵かい！秋先取りして黄色く染めたる思ったのに！」

前野、涙を拭い、笑う。

前野「……せやな、笑いの花咲かせたろ！」

大西「そうと決まったらネタ合わせや！気合  
い入れてくぞ！」

大西・前野、権田邸に一礼し、来た道  
を引き返して走り出す。

赤  
松

青  
海